

22J-am01

スタチン製剤と抗血小板薬併用治療における目標 LDL-C 値の未到達患者の要因解析

○百賢二¹, 安武夫¹, 安井寛², 黒田誠一郎¹ (¹東大医科研病薬, ²東大医科研)

【目的】スタチン製剤 (St) と抗血小板薬の併用は心血管系イベントの2次予防を目的とした標準治療であり、LDL-C の目標値 (100 mg/dL) の達成は生命予後を改善させることが報告されている。本研究では、レセプトデータを利用し、働き盛り世代における両剤併用中における目標 LDL-C 値の未到達患者における要因について探索した。【方法】レセプトデータは JMDC 株式会社より提供をうけた。具体的には、健康診断情報を有する患者 201,226 名から、低用量アスピリン (Asp) を新規に開始した患者のうち、St 併用患者であり、かつ 60 歳以下の社会保険加入者 302 名を解析対象とした。これらの患者において、両剤の併用開始から3年後までの LDL-C の目標達成率を評価した。また、対象患者のうち、併用直前の LDL-C データの入手ができた 141 名においては、目標 LDL-C の未到達患者における要因を抽出した。【結果】対象患者における LDL-C 目標達成率は、49.3% (1年後)、50.7% (2年後) および 45.4% (3年後) であった。ベースラインの LDL-C の測定が行われていた 141 名における、目標 LDL-C の未到達患者 (n=102) の特徴として、ベースラインの LDL-C 高値 (p=0.028) と St のアドヒアランス低値 (p=0.005) が因子として抽出された。【考察】ベースラインの LDL-C 高値の患者における St アドヒアランス向上が重要であることを明らかにした。